

而して右掲示數十枚を三庄、土生両町の要所及び愛媛縣生名村の渡場等に致して以て發表せり。

二、三日

掲示

本日ヨリ當分ノ内休業ス

大正十三年五月二十三日 株式会社大阪鐵工所因島工場

右を前夜半各處に致し翌朝に至り彼等は之を知るも及び各處の掲示を破り、釐千余名は岡田廻漕店前街路に於ける警官の警告戒線を突破し工場表門を破り、折柄出勤の途にありし造機部長西牧忠治氏を包圍し工場休業の無法を罵り何時退散するとも知れざるを以て遂に西牧氏は起ちて、之れが説明と十五日未の至過並に真相を熱誠をこめて叫び其反省を促し此同一種凄惨の氣漲り午前六時半より約二時間亘れり。然れども押寄せたる職工は更らに退散せず、依て同部長は工場最高幹部と今一應協議の上回答する旨を述べ海上より午前八時五十分入場するに至れり。

依て彼等爭議團員が休業の掲示を知りたりと言ふる対し元記掲示を以て回答す代へ同部長手引けざるを以て香山警官士長をして其意味を通せしめたり。

掲示

承りより休業するに就ての掲示は各處に致したのが多うます。依て当工場としては最善方法を講じたと言ふのであります。諸君が之を知らぬと言ふ事は絶対的当工場は其責を負ふ事は出来ません。

大正十三年六月二十三日 因島工場

之を見るや彼等は午前拾時二十五分喊声を揚つて大正座より午後一時より會社社旗演説会を開催し飽く迄戦はん事を決議せり。

同日午後三時五十分出張中の箕子工場長帰場せられたり。

二十四日

午前十時五分三庄爭議團員三百余名土生工場表門に押寄せ来りたるも直ちに因島労働組合支部へと去れり。